

第11回全国和牛能力共進会の概要

開催テーマ：「^{たか}高めよう生産力 ^{せいさんりよく} 伝えよう和牛力 ^{つた} ^{わぎゅうりよく} 明日へつなぐ和牛生産^{あした} ^{わぎゅうせいさん}」

主催 公益社団法人全国和牛登録協会
運営団体 第11回全国和牛能力共進会宮城県実行委員会
参加 全国39道府県
会期 平成28年6月____日() ~ 平成29年9月11日(月)
最終比較審査
会期 平成29年9月7日(木) ~ 平成29年9月11日(月)
会場 種牛の部 宮城県仙台市 夢メッセみやぎ
肉牛の部 宮城県仙台市 仙台市中央卸売市場食肉市場
出品頭数 種牛334頭、肉牛183頭、合計517頭

【開催のねらい】

「能力共進会」の名称のもと、和牛の能力と斉一性の向上を目指す本共進会も、今回で11回目を迎えます。本共進会の特徴は、それぞれの時代における和牛生産と改良上の重要課題を反映した出品区を設定し、日常の登録事業を通じた改良成果の検証と併せて、次世代を託せる素材の選抜と展示により、今後の和牛改良の方向性をも明示することにあります。

そのため、本共進会では、開催のねらいに基づくテーマを掲げ、その実現に努めてきました。これまでの共進会では、

- 第1回（昭和41年・岡山県） 「和牛は肉用牛たりうるか」
- 第2回（昭和45年・鹿児島県） 「日本独特の肉用種を完成させよう」
- 第3回（昭和52年・宮崎県） 「和牛を農家経営に定着させよう」
- 第4回（昭和57年・福島県） 「和牛改良組合を発展させよう」
- 第5回（昭和62年・島根県） 「着実に伸ばそう和牛の子とり規模」
- 第6回（平成4年・大分県） 「めざそう国際競争に打ち勝つ和牛生産」
- 第7回（平成9年・岩手県） 「育種価とファイトで伸ばす和牛生産」
- 第8回（平成14年・岐阜県） 「若い力と育種価で早めよう和牛改良、伸ばそう生産」
- 第9回（平成19年・鳥取県） 「和牛再発見！ 一地域で築こう和牛の未来」
- 第10回（平成24年・長崎県） 「和牛維新！ 地域で伸ばそう生産力 築こう豊かな食文化」

というテーマが設定され、それぞれ所期の成果を収めてきました。

前回大会では「和牛維新」をテーマに掲げ、より効率的な和牛生産と改良に向けた基盤づくりを最重点事項と位置付け、和牛の経済形質の向上に貢献できる合理的な指標である「種牛審査標準」の改正などに着手しました。今回は、「種牛審査標準」が適用されて5年が経過した大会となり、最終比較審査の開催年次には繁殖雌牛集団の過半数がこの

「種牛審査標準」による選抜を経た牛群で構成されます。したがって、肉用種としての特徴の堅持と種牛性の一層の改良という課題に取り組んできた成果を積み上げながら、改良をより確実なものとし、開催テーマ「高めよう生産力 伝えよう和牛力 明日へつなぐ和牛生産」のもと、「和牛維新」の達成に向けた取り組みを推し進めていきます。

そのひとつが、生産効率の向上を目指した繁殖能力の改良への取り組みです。全国の繁殖雌牛集団における分娩間隔の平均値を400日以内にすることを目指し、優良雌牛の地域内保留を進めていくとともに、繁殖能力に係わる選抜指標の検討を行い、生産現場での活用を図ります。

優良雌牛の地域内保留は、繁殖雌牛集団の整備に不可欠であるばかりでなく、地域における特色ある牛づくりにもつながります。各地域で着実に保留を進め、その積み重ねにより総合的に能力の高い牛群の拡充を目指します。

和牛集団の遺伝的多様性の維持・拡大については、和牛の将来にわたる生産と改良を保証するために避けることのできない重要な課題です。このため、地域における特色ある系統の再構築に取り組み、系統の遺伝子を確実に次世代へ伝えることのできる体制づくりを進めます。

和牛の産肉能力は量、質ともにめざましく向上してきました。今後は、食料生産・流通・消費の動向を見据え、脂肪交雑だけではなく、消費者が求める「美味しい和牛肉」の追求と効率的な生産を目指していくことが喫緊の課題となっています。前回採用した脂肪の質の客観的評価については、評価体制のさらなる充実を図るとともに、和牛肉の価値観にどのように反映させ得るかを検討します。さらに、食味性に係わる形質の評価についても効果的な指標づくりへのアプローチを進めます。また、効率的な和牛肉生産の観点から、熟度も伴いながら早期に仕上がる産肉能力の改良を目指し、遺伝的能力と肥育技術により、質・量に加え生産効率も含めた和牛肉のすばらしさを実証展示します。

このようなねらいの実現にあたって、生産・改良基盤の安定・強化は欠かすことのできない課題です。全共への取り組みを通じて、改良組合をはじめとする組織活動の活性化を促し、生産、改良意欲の増進を図ります。また、今後を担う後継者、地域を牽引する技術員の養成につなげていくことを目指します。さらには、東日本地区を中心に多くの和牛産地に被害をもたらした東日本大震災からの復興に向けた大会としても位置づけ、全国の産地とともに被災地域が力強く前進する姿を全国へ発信します。

和牛は歴史と風土に培われた我が国固有の財産であり、日本の食文化を支える和牛の魅力を、多くの消費者に伝え、理解を醸成するとともに、生産者と消費者の絆がより強いものとなるよう、ともに参加できるような催しも企画します。

食料、資源を巡る動きが世界的規模となりさらに厳しさを増すなか、和牛が持つ優れた能力にさらに磨きをかけるとともに、繁殖、肥育両面から生産効率を向上させ、安定した和牛経営の実現に寄与していくことが重要です。

和牛が我が国の食と農を支える基幹産業として成長してきた今日、和牛界の総力を結集して、「和牛維新」の達成を目指します。

【出品の区分について】

出品の区分

出品区	生後月齢※4	生年月日	備考
第1区（若雄）	15～23ヵ月未満	平27.10.8～平28.6.7	
第2区（若雌の1）	14～17ヵ月未満	平28.4.8～平28.7.7	
第3区（若雌の2）	17～20ヵ月未満	平28.1.8～平28.4.7	
第4区（系統雌牛群）	14ヵ月以上	平28.7.7以前	
第5区（繁殖雌牛群）	3産以上		
第6区（高等登録群）	14ヵ月以上	平28.7.7以前	
第7区（総合評価群）			※1
種牛群	17～24ヵ月未満	平27.9.8～平28.4.7	
肉牛群	24ヵ月未満	平27.9.8以降	
第8区（若雄後代検定牛群）	24ヵ月未満	平27.9.8以降	※2
第9区（去勢肥育牛）	24ヵ月未満	平27.9.8以降	※3

※1 出品牛の父牛は、平成17年10月1日以降生まれのもの。

※2 出品牛の父牛は、平成22年10月1日以降生まれのもの。

※3 出品牛の父牛は、平成17年10月1日以降生まれのもの。

※4 月齢は宮城会場初日（平成29年9月7日）で起算する。

改良の中核的集団である和牛改良組合の活動を活性化させ、生産・改良基盤の強化を図るねらいから、種牛の部の出品者については「和牛改良組合の会員」であることとしました。また、能力共進会としてふさわしい大会にするため、出品条件に繁殖能力や産肉能力の育種価条件を盛り込み、さらに、世代交代の促進と改良速度の向上を図るため、若い種雄牛の産子による出品区や出品牛の父牛に年齢制限のある出品区を設けました。一方、遺伝的多様性の確保並びに地域における特色ある系統の再構築も継続して取り組まなければならない改良上の重要課題であり、これらの取り組み成果を確認できる場としての出品区も設定しています。

①若雄（1区）

産肉能力、種牛能力ともに高い能力が期待される種雄牛の造成を狙った出品区です。

個人または道府県による個体出品で、道府県の改良方針に基づき計画的に造成された種雄牛候補が出品されます。

出品牛は産肉能力について、出品牛の母牛には繁殖能力について、一定以上の水準が求められます。

なお、道府県の改良を牽引することが期待されるこの区の対象牛については、後代検定により早期に能力を確認します。

②若雌（2～3区）

改良組合活動の活性化による増頭意欲の向上とともに、全共参加者の拡大を促すことを狙いとした出品区です。

個人による個体出品で、出品者は、本会認定の「改良組合の会員」であることが条件です。

出品牛は産肉能力について、一定以上の水準が求められます。

なお、この区の対象牛を積極的に改良組合内に選抜・保留し、地域全体の生産基盤の安定と拡充につなげます。

③系統雌牛群（4区）

和牛集団の遺伝的多様性の維持・拡大と、地域における特色ある系統の再構築を目指し、将来にわたって系統の特色ある遺伝子を保留・固定していくための確実な体制づくりとその取り組み成果の実証展示を目的とした出品区です。

出品単位は、本会認定の和牛育種組合ならびに本会支所を目安とした出品で、系統再構築に向けた取り組みの中で計画的に生産された雌牛4頭を1群として出品されます。

出品系統は地域における遺伝的多様性の維持・拡大を担うもので、地域の特色を備えていることとし、出品牛は系統内から造成された種雄牛により系統の遺伝子の固定が図られた経緯のあるものとし、また、産肉能力と繁殖能力について、一定以上の水準が求められます。

なお、系統再構築に向けた取り組みについては、この区への出品を通じて実施してきた取り組みを1つのモデルケースとして、育種組合等を中心とした各地域のなかで、さらに活動の幅を広げ、充実させていきます。

④繁殖雌牛群（5区）

改良の基盤となる繁殖雌牛集団の斉一化を図るとともに、改良組合を中心とした集団活動による改良成果の確認と技術向上を目的とした出品区です。

本会認定の改良組合ならびに本会支所単位を目安とした出品で、成雌牛4頭を1群として出品されます。

出品牛は繁殖能力と産肉能力について、一定以上の水準が求められます。

なお、この区の対象牛による優良産子の生産とそれらの地域内保留に努め、集団全体のレベルアップにつなげます。

⑤高等登録群（6区）

母―娘―孫娘に亘る改良の成果の確認と、優良雌牛系統の地域への保留推進と拡大を狙いとした出品区です。

本会認定の改良組合ならびに本会支所単位を目安とした出品で、高等登録の母牛と娘牛及び孫娘牛の直系3代にわたる3頭を1群として出品されます。

この区では、改良の中核となる高等登録の意義を再確認し、地域の生産・改良基盤の強化のため、高等登録の促進につなげます。

⑥総合評価群（7区）

種牛能力と産肉能力を総合評価する出品区で、地域の改良の中核を担う種雄牛の産子を実証展示し、各地域の改良成果を確認することを狙いとした出品区です。

出品は本会認定の育種組合の存する道府県を中心として、道府県の改良方針に基づき計画的に造成された同一種雄牛の産子を、種牛群（4頭）と肉牛群（3頭）合わせて1群として出品されます。

出品牛の父牛には年齢の制限が設けられ、種牛群の出品牛は繁殖能力と産肉能力について、また肉牛群の出品牛は産肉能力について、それぞれ一定以上の水準が求められます。

この区の対象種雄牛により生産された優良雌牛を積極的に地域内で保留し、種牛能力と産肉能力をバランス良く備えた次世代の繁殖雌牛集団づくりにつなげます。

⑦若雄後代検定牛群（8区）

次の世代を担う能力の高い若い種雄牛の発掘と、現場後代検定の普及促進を狙った出品区です。

個人またはグループによる出品で、同一種雄牛の産子の去勢肥育牛3頭を1群として出品されます。

出品牛の父牛には年齢の制限が設けられ、産肉能力について一定以上の水準が求められます。

なお、この区の対象牛は、これからの地域を代表する可能性のある種雄牛として位置づけられており、積極的に利用し、世代交代の促進につなげます。

⑧去勢肥育牛（9区）

効率的な肉牛生産を目指し、和牛の肉用牛としての能力の追究と、それらを最大限に引き出す肥育技術の研鑽を目的とした出品区です。

個人による個体出品で、1つの道府県から2頭までの去勢肥育牛を単品として出品されます。

出品牛の父牛には年齢の制限が設けられ、産肉能力について一定以上の水準が求められます。

なお、この区の取り組みを通じて得られた成果を発信するとともに、繁殖・肥育の連携を強め、生産性の向上につなげます。